

(様式第7号)

### 地域の課題解決のための活動報告

記入日：令和 2年 6月 7日

作成者：池田 耕太郎

地域の課題解決のために行った活動を1つ選び、できるだけ具体的数値を挙げて報告してください。すべての項目に、一般の人に伝わりやすいようにご記入ください。

\*この報告はあしや市民活動センターのホームページに掲載されます。

(登録を公開している団体のみ)

団体名	
原発をなくそう芦屋連絡会	
事業名	日時(期間), 場所
総会記念講演会「原発の廃炉、使用済み燃料の問題について」(講師:岩井 孝 氏)	2019年6月30日(13時半~15時半) 芦屋市民センター 別館218室
内容(実績) *実施したことを具体的に	受益者数
廃炉が確定している原子炉は現在25基ある。解体には長期間かかり、かつ大量の放射性廃棄物が発生する。この放射性廃棄物をどうするのか?国の考えは、「地下50~100メートルで300年間民間事業者らが責任を持って管理。その後は規制はしない。ただし、処分場は10万年間隔離する。」講師の岩井さんは国の方針とは異なって、「墓地方式」を推奨しておられる。それでも隔離期間は同じとのこと。使用済み燃料の処理においてもほぼ同じ問題があるとのこと。 岩井さんの講演内容詳細を会報47号(添付しています)に載せています。	(350)人
	参加者数
	(53)人
成果(社会へのインパクト) *どのような良い変化を社会にもたらしたかを具体的に	
使用済み燃料の処理に大きい問題があることは知っていましたが、廃炉にはそれ以上の問題があることを参加者一同知りました。そもそも原発をスタートさせた時にこれらをどう解決するのか、話題にはなっていませんでした。 「気の遠くなるくらい長い将来にわたるツケを現代の我々がつくっているんだ」ということを皆に知らせなくてはならないと参加者一同が思いました。	
今後の展望(どのように継続, 発展するか)	
福島第一原発の汚染水(大量のトリチウム、セシウムを含む)の処理をどうするのかということも今大きい問題となっています。これについても本年中に専門家を招いて講演をいただくことを予定しています。	